



おちほ

第34号 平成11年6月21日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一



ワッショイ!
ワッショイ!

晴天に恵まれ白山神社の氏神祭に、手作りのみこしを担いでお参りに行って来ました。沿道より温かい声をかけて頂き、その声に包まれて和やかな雰囲気の中、練り歩くことが出来ました。

氏神祭と同じ日に、落穂寮にとって忘れてはならないことがあります。この日は落穂寮の誕生日、開寮記念日です。今年で49歳になった落穂寮。成人化に向けて生まれ変わろうとしている最中です。こちらは練り歩いて……という訳にはいきませんが、地域の方々の温かい声援と、みこしを担いだ寮生・職員、そして落穂寮に関わるたくさんの方々で、新しい落穂寮を造っていければと思います。どーなつ島に暮らすみど、ふぁど、れっしー、そらおの様に、歌あり、笑いありの生活が夢ではなくなる日が来ることと思います。

今後共、より一層のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

昔々今ふく

「一孔君の悲しみの言寄せて」

理事長 増田正司

前回、一孔君について拙文を書いたら、旧職員の溝口弘さんと轡田映子(旧性山崎)さんから便りをいただいたので、ご紹介する。

溝口さんから、「寮生のためにとつくられた寮が、職員の指導の

手違いや無力さで……寮生を悲しませたか……」衝撃でした。手違いでなく、間違いや無力さでなく、暴力でありました。おちほを辞めさせていただいで18年になるのに、まだ夢をみます。みんなとそう変わらなうおつきあいたつもりなのに、何故か一

孔君なのです。まわりの状況は定かではありませんが、ふふふと笑って右手だか左手だかの指で紙をいじっているあの姿です。声なき声ではありませんでした。私の理不尽な仕打ちに声をあげて向かってきました。

その悲しみを本当にわかるようになったのは、つい最近です。くつものはけない、ごはんもたべれない、トイレもいけない、寝たきりでこそなかつたが、最重度のハンディに一番泣いていたのは彼なのに、大変だ、大変だと大変なふりをしていた私たちに怒り心頭に発していたのは一孔君だったのです。

それだけでなく、時には声をあげて笑ってくれる、その心持をその寛容を私はどれだけ解っていたのか、解ろうとしていたのかを考えると全く恥ずかしいかぎりです。

溝口さんの誠実な人柄にあらためて脱帽の思いです。

轡田さんから、「おちほ」に書いておられた文を読み、心打たれました。特に、一孔君の話しには本当に胸が詰まりました。しかし、心から一孔君の事を心配して下さ



▲琵琶湖周歩での溝口さん(右端)と轡田さん(左から四番目)

る、先生たちがおられるのは、なによりの救いだと思えます。先生が書いておられたように、

「寮生さん一人一人に即した、きめ細かい配慮に欠けていたのでは」と、いうのは確かにあると思います。けれど、先生は子供たちの事を常に優先した、職員には手厳しい上司だったと思います。本当にせんせいはよくやっておられました。しかし、しかし、どれだけ一生懸命やっても、「勘忍してや!」の思いは、どうすることも、できないでしょう。

それだけ、物言わぬ一孔君の訴えは大きいのだと思えます。

轡田さんから一孔君への優しさの便りをいただき、うれしくなりました。

「おふたり、どうも有難う」

(99・5・1)

昔々今ふく

と
今
ん
ぼ
は
つ
ど
り
ご
ま
で
い
っ
た
や
ら

寮 長 山 下 陽 一

一 麦寮のグラウンドの入り口には、あたってきたのだろうと思います。

花崗岩の台座の上に鳩のブロンズ 現在の私たちの方法はこの試行

があります。「道標」と銘打たれ 錯誤の積み重ねの上に成り立っ

た裏にまわるとステイル板に過 いて、日常の対応が、言葉になら

去在職した保母さんたちが旧性の ないものが、雰囲気として伝わ

連名で百人余刻まれています。施 ているに違いありません。それは

設の生活を根っここのところで支え ちようど松明が次から次へと引き

ているのは、やはり若い時代を子 継がれるように伝えられてきたも

供達と一緒に生活していた人たち のだと思えます。火は火によって

としての建てられたものでしょう。 のみ引き継ぐことができるのです。

落穂寮の創立は一九五〇年です 新設の施設にないものがあるとす

ので西暦二〇〇〇年にはちようど ればこのことかも知れません。

五〇周年を迎えることになりました。 蜻蛉つり

近江学園から分岐して以来、初期 きょうはどこまでいったやら

の現場の職員は、今日のように参 (加賀の千代女)

考書や研修も十分ではなかったに 千代女は今から約二百三十年前

もかわらず、日々、起きてくる の俳人ですが、この句は母親が、

問題に、日常生活している中から 夕刻になっても帰らぬ我が子を心

対応方法を個々に工夫して解決に 配して、夕暮れの空に向かう姿を

感じさせますが、それが、施設に いて夕焼けの美しさにしばしみと

かと思えます。 れて子どもたちと一緒に立ち尽く

今日、落穂寮は、女性パワー全 開で、マイクロバスの運転にも女

性の進出があります。男性の精気 をはるかに凄いのではない

「建物は今」

前号では、女子棟と食堂棟の骨格が出来上がったところまでお伝えしました。大事なのはやはり土台といふ事を実証すること以上に、そこから先の何と早いこと早いこと。外壁の基礎ができたところで



三月一日に第一回目の現場説明会が行なわれました。こちらが要望していることが実際に際立っているかどうか。また、実際の建物の

見る事で変更箇所がないかどうか。一旦作ってしまうとやり直しがき

入念にチェックし、実際に立ち回り、自分の担当の寮生さんを頭に浮かべながらの説明会でした。ポイントには、ちょっとやそつとでは壊れない頑丈なつくりが必要であること、補修が可能な材質・構造になってることの2点です。私達が開口する度に、業者の方々が閉口するという何ともおかしな



くに来られた際には、是非お立ち寄り下さい。

「みんなは今」

新年度が始まりました。寮生中という中で制限の多い生活に加えて、新体制での戸惑いなどから不安定気味の人も多く、あわただしい日々を過ごしています。工事が始まって7ヶ月が過ぎようとし、工事の大きな音がずっと多い生活にも慣れてきたやうです。とりより、この状況の中で生活するしかないというのが本音かもしれません。

工事中は、活動場所が制限されるのはもちろんのこと、移動などに危険が伴うということもあります。また各棟での食事ということは、生活と食事が全く同じ場所ということで、寮生生活の中ではやはり、時間に追われパタパタとしてしまいます。

そんな状況の中で寮生さんは、不便 不満 ストレスを感じつつも、なんと自分だけの居場所をつみつけたら、少しずつ慣れて落ちついているように、本人なりに頑張っている

夢 人の軌跡

（それだけ無理難題を押しつけているのかな?と構図でしたが、第二回目は三月二十五日に無事に終え、この六月には、再び引越して大寮です。職員・更生・保護者・関係各位の皆さんが、平成十二年四月を心待ちにされていることを動みに、何とかが乗り切りたいと思っ

落穂養成人施設建設に際しましては、左記の方々から多大な御寄附を頂きましたこと、心から御礼申し上げます。

(平成十一年二月九日～四月二十七日)

(敬称略・順不同)

山口 三浦正弘 ㈱高畑産業 畑中チヨ ㈱積水化学工業
業 積水化学労働組合水工場支部 田崎紀美子 平塚寛三
十王寺東部仏教婦人会 白川鉄雄 白川ゆづり 青木敏雄
会 金井義典 金笠恵子 蓮葉寺仏教婦人会 善降寺仏教婦人会
人 井村智子 明清寺仏教婦人会 浄現寺仏教婦人会 南
人会 提良二 中橋弘 中橋麻理子 内貴保 藤川秀子 菅
江玲子 宮代茂子 宮田かず 喫茶ホワイ ト 長田忠男 中
瀬重男 山中康彦 山中美代子 岡山良夫 岡山ちづる 福
井きく 田中光寛 末武博隆 末武佳季子 平安女学院短期
大学保育科 森田重治 中嶋慶次 竹内善一郎 松本良一
井上喜与子 奥村昭二 橋本佳博 木村要 谷昌一 増田富
喜男 山本安夫 山本彩路 廣末義光 八木健彦 八木春美
八木吾一郎 ㈱石部運輸倉庫 山本幸子 武田つや子 後
村しげ子

お ら は

ます。職員も、寮生さんとの関わりや生活の中でできることがあるのに、この状況から、「仕方ない」と思っていないか、どうすればこの状況の中で寮生さんが安定して生活できか考えつつ生活する毎日です。

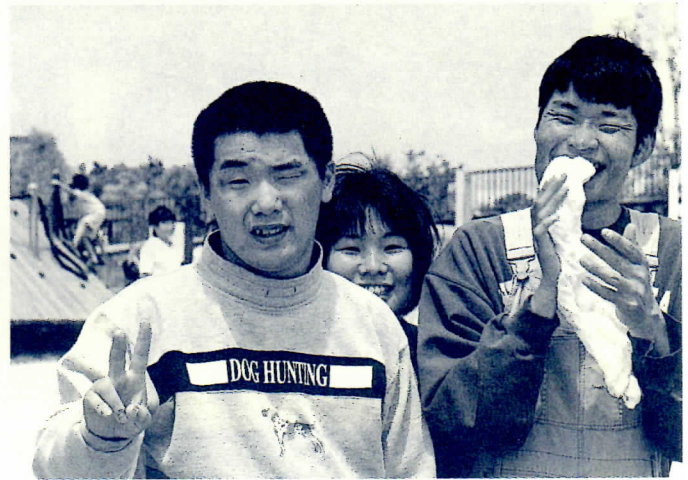
また「安定」とはいえませんが、この状況の中でも「仕方ない」とあきらめず、新施設によって良い生活を目指して頑張っていくつもりです。今はまだ、新体制での戸惑いからか不安定なところもありますが、これから新たな関係性を築いていくことで解消されることを信じています。

さて、新施設については、ようやく女子棟が完成しました。この広報誌がみなさんの手元に届く頃には女子棟は新しい建物での生活が始まっています。新しい生活という考えですが、建物ができ



旧女子棟ホールにて

新人紹介



男子棟 佐々木 律子

十月から落穂寮の一員となりました佐々木律子です。まずは自己紹介をしたいと思います。

私は春に華頂短期大学を卒業したばかりの二十歳です。実家は甲賀郡甲南町にあり、落穂寮から車で三十分程と、とても近いです。

趣味は水泳で、泳ぐ事が大好きです。水泳は幼稚園の頃から始め、中学生の時には水泳部に入っていました。始めた頃は、シャンプーをするのすら嫌な子だったので、水に顔をつけるなんてとんでもな

く、水泳の時間がとても苦痛でした。でも長い間やっていけば慣れるもので、小学六年生までには四泳法を泳げるようになっていました。部活動では激しい練習、厳しい指導、時間との戦いで楽しんでる余裕など無く、泳ぐ事が嫌いになってしまいました。だけどやめてしまう事は出来ませんでした。自分から水泳をとってしまおうと、何も残らなかつたからです。今は好きな時に、好きなだけ泳いだらいいので楽しく水泳とつき合っています。落穂寮には大きなプールがあるので、みんなと楽しく泳べたらいいなあと思っています。こんなまだまだ子どもな私ですが、しっかりと落穂寮の一員になれるよう頑張りますので、御迷惑などかけることと思いますが、どうぞよろしくお願いします。

今年四月に落穂寮の職員となった金森泰明です。この職員の順序や仕事の中で

男子棟 金森 泰明

自分の役割や寮生さんへの接し方、対応についてわからないことばかりで戸惑うことばかりです。ですから、職員の方や寮生さん達には非常にご迷惑をかけております。自分自身一日も早く仕事を覚えたいと思うのですが、新人職員は、次々と覚えなければならぬことばかりで、一日がとても長く、心も体もヘトヘトで、一日もつかどうかというほどに、その日を過ごすことで精一杯の状態です。ですから仕事を覚えようとしてもなかなか覚えることができず、その上、仕事の失敗が重なるのとそれだけでも疲れてしまいます。だから、もうしばらくはご迷惑をかけ

今年四月に落穂寮の職員となった金森泰明です。この職員の順序や仕事の中で



てしまいますが、どうかお許し下さい。私もできるだけ早く、自分のペースをつかんで、この職場の雰囲気慣れるように努力していきたいと思います。

また、寮生さん一人一人と話したりして、個々の行動・性格・能力などを、生活を通して理解していきたいと思っています。その中で、自分自身も寮生さんと共に成長していきたいと思っています。

最後に、一日一日を大切に、職員の方々や寮生さんとの間にも少しでも深い信頼関係が結べるように努力していきたいと思っています。

男子棟 久保 賢太郎

今、この落穂寮で働いていて、色々なことを感じています。

まず、自分の行動もあいまいな事が多いので、「福祉」や「仕事」について書くことは今はできません。自分自身を育てあげていくことの方が今は大切だと感じています。これは否定的な意味で書いているのではなく、療育者(援助者)となるのに、もっとい

ろんな事を知って、感じて包容力のある人間になるという前向きな気持ちで進みたいという思いなので、福祉の魅力にあきることはありません。プロフェッショナルになることは、仕事であり、また仕事は仕え合うことであると思っています。その仕えることは、自分の一存とか、私的解釈だけで動くことではないし、自分の欲や思いを横に置いて、相手を見る時に、相手が見えてくるものだと思うから、仕えることはまず相手を知ることだと思っています。そうして相手の思い、欲求、感情が分かかって仕えることができると思います。常にそ

の事を考え療育者(援助者)に近づいていきたいです。

女子棟 田村 京子

はじめまして。四月から落穂寮の一職員として働くことになりました田村京子です。

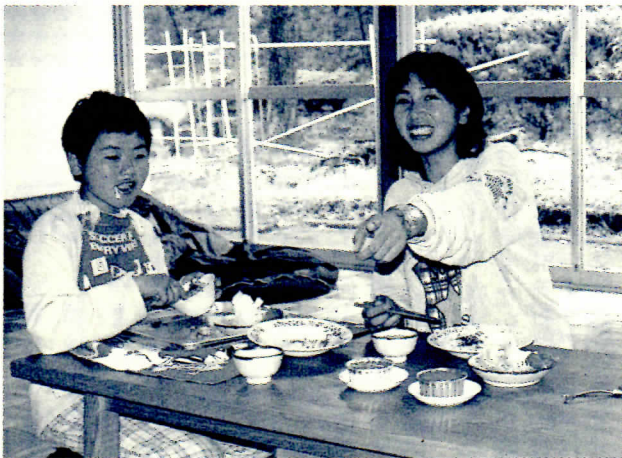
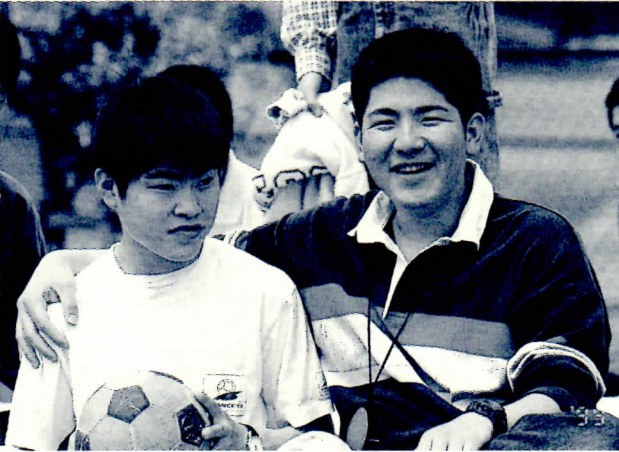
落穂寮に来てもう一ヶ月が経りました。私は時間があまりに早く過ぎていくことに大変驚いています。内容的にも体力的にも寮生さんにも少しずつ慣れてきましたが、まだまだ抜けていることも多く、寮生さんや他の職員さんにお世話になっています。

私は学生時代、障害児教育を学びつつ、山や岩に登ったり、テレマークスキーで雪山を滑ったり、川や海で泳いだり、と好きなことをしてきました。特に私は山歩きが好きで、昨年の夏には念願の白馬連峰に登りに行きました。ずっと晴天で、ピンクや黄色や青色や白色の様々な花が咲き乱れ、夜は満天の星空、最終日のテント地では、標高二一〇〇メートルの露天風呂の温泉にどっぷりつかるといっ

い沢な山行をしました。

これをやりたいと思ったら時間がかかってしまう、というのが私の取柄です。これを趣味の分野だけでなく、仕事の上でも活かしていけるように、一日でも早く仕事を覚え、私らしさを出せる職員になりたいと思っています。

皆様方にはご面倒をおかけすることも多々あると思いますが、色々ご指導頂きますよう、よろしくお願い致します。そして、寮生さんらと共に歩んでいけるようにがんばりたいと思います。



平成十二年 落穂察年間行事予定

四月 七日 帰寮日

四月 十二日 始業式

四月 十八日 お花見遠足

五月 一日 氏神祭

五月 十六日 開寮記念日

五月 十九日 親の会総会

五月 十九日 お地藏さまの引っ越し作業

六月 六日 男子棟親子合同飯盒炊さん

六月 十三日 短期帰省

六月 七日 居住棟の引っ越

六月 十二日 し作業

六月 八日 炊事場の引っ越

六月 十九日 し作業

六月 二十一日 SS文化の集い

七月 七日 七夕まつり

七月 十八日 プール開き

七月 十八日 親の会

七月 二十六日 湖畔学舎

四月 二十六日 春季帰省

八月 八日 夏季帰省

八月 二十二日

九月 二十三日 納涼祭・地藏盆

九月 十二日 お月見

九月 十九日 親の会

十月 十日 親子合同運動会

十月 三十一日 秋季帰省

十一月 七日

十一月 二十一日 男子棟親子旅行

十一月 二十一日 女子棟親子旅行

十二月 二十五日 クリスマス会

十二月 二十六日 冬季帰省

一月 九日

平成十二年

一月 日 成人式

二月 三日 節分

二月 二十七日 おちほの発表会

三月 三日 おひなまつり

三月 日 竣工式

※その他、各居住棟ごとにて、四月九日

飯盒炊さん、忘年会、新年会、年度末のごくろうさん会などのほか、毎月誕生日外出やおやつ作りを計画しています。



泉

▽「木の芽どき」という言葉があります。新しい命が生まれる程、活力に満ちた時なのかもしれません。そんな時だからか、寮生さんも人的・物理的環境の変化も影響してか落ち着きがありません。そんな四月がすぎると、今度は職員五月病です。何とか乗り切らなくては...。自戒の念ばかりです。▽さて、四・五とすぎ今度は六月になりました。引っ越しです。寮生・職員とも、落ち着かない(落ち着けるはずもない)日々が続きます。変化を好まないのは寮生だけではないようで、できれば波風立たぬようにと思いがちです。しかし、変化なくして進歩はありません。成長のための変化とできますように。

木言

また新しい春が来た。萌葱色の新芽がそろそろ立場を主張しなくなった。そのうちまた夏が来て秋が来て、そして冬が来る。でもそこには新しい芽が用意されている。同じことの繰り返しに思われるが決してそうではない。忘れるな。同じことなど二度とないということ。